NO.27

昭和61年（1986年）5月14日　水曜日　（8）

秋田さきがけ

"ミニ独立国"から五輪

「珍競技」がいっぱい

「吉里吉里国」など日本全国の"ミニ独立国"を集めて、二十三日から三日間、第一回ニッポンミニ独立国オリンピック大会が東京都八王子市で開かれ、七月三日にABS（日本テレビ系）「木曜スペシャル」（後7時）で放送される。

ミニ独立国は町興し村興しを目的に、観光客誘致などを目的に、約十年前から登場し、井上ひさしの小説「吉里吉里人」の出版をきっかけに各地に続々と誕生した。現在"ミニ独立国国連事務局"調べで百八カ国があり、毎年"サミット"も開かれている。この大会も昨年のサミットで決められ、北海道の「ポテト共和国」、仙北郡西仙北町の「秋田カエル村」、福島の「ニコニコ共和国」、大阪の「そやんか合衆国」、ミニ独立国の草分けの大分の「新邪馬台国」など五十五カ国が参加する。

競技は十二競技十七種目。すべて普通のスポーツを一ひねり二ひねりしている。代表的なものを拾ってみると―。

水槽を特設して「水中重量挙げ」。実験では二・五倍から三倍の重さのバーベルを持ち上げられたそうだが…。「フィンスイミング」は規定の手ひれ足ひれを着けての百㍍自由形競泳。四九秒〇〇の世界記録に挑戦する。

日本テレビの保坂武孝チーフプロデューサーは「当初は二十カ国、三百人ぐらいは集まるかな、と思っていたが、ふたを開けると"あそこには負けたくない""金メダルの一つでも"と、県別国別の闘争心が出て、これほどの参加になった。パロディーで育て、地方の時代への推進力にしたい」と話している。

「国」などは、このオリンピック出場のためにできた国。

参加する役員と選手団（「銀杏（ぎんなん）連邦」の二百五十人をトップに「アルコール共和国」（新潟）の百五十人などが続き、総勢千人。応援団を加えると三千人に上る。

陸上では、体操の踏み切り板を使ってジャンプするという。

「走り高跳び」。これも実験では四、五十㌢も跳躍力が増したとかで"世界記録"に夢をつなぐ。また、百人が百㍍がつ走る「二万㍍リレー」は、どんなタイムが出るか。フィナーレを飾る「独立国式マラソン」は距離を十分の一にして四・二一九五㌔だが、自国をアピールする衣装を着ての仮装「走り高跳び」。

総合司会は日本テレビの徳光和夫アナウンサーとマリアンのコンビ。審判に水野晴郎、近江俊郎、解説に宍戸錠、松平康隆らが顔を見せ、選手としてはレオナルド熊や荒勢らも参加する。

7月3日にABSが放映

昨年の"サミット"に集合した全国のミニ独立国

河北新報
昭和61年（1986年）5月10日（土曜日）

東北から7ヵ国参加

ミニ独立国が初の五輪

町おこし、村おこし運動など全国各地でユニークな地域活動をしている"ミニ独立国"が集まって二十三日から三日間、東京都八王子市で「第一回ニッポンミニ独立国オリンピック大会」を開く。東北からも、宮城の「みやぎ北上連邦」や岩手の「吉里吉里国」など七カ国が参加を予定、大会を盛り上げたいと張り切っている。

近代オリンピックの理念をもじった「参加することに意義・はなし」との大会理念や、競技種目が「水中重量挙げ」「手づくり竹馬スピードレース」など、パロディーにあふれた大会で、五十四カ国から約千人が参加する。

ミニ独立国は四十七年、長崎県内高島に生まれた「自然の国」がはじまり。五十年代に入り、各地で次々と誕生した。

国家間非公式のつながりもできき、五十八年からは各国の大統領、国王らが集まるサミット（"俊進国"首脳会議）を開催。オリンピックも昨年十一月に八王子市で開かれたサミットで決まった。

パロディーから生まれた国々の大会とあって遊びの精神が盛んだ。シンボルマークは「上下関係をなくして平等に」と五輪マークを二列に並べてくし刺しにしたマーク。スローガンは「より本気。より呑気（のんき）。より元気」といった具合。

各国からの募集で決まった競技十二種目のうちまともなのは「各国対抗四百㍍リレー」「年齢別百㍍競走」ぐらいで、あとは「人間アメンボ水上徒競走」「四面バレーボール」「踏切板付き走り高跳び」などユニークな種目ばかりだ。

オリンピック組織委員会事務局は東京都八王子市追分町一〇ノ五、ミニ国連事務局内。電話は0426（26）5777。

東北からの参加国は次の通り。

秋田カエル村　秋田県西仙北町　吉里吉里国　岩手県大槌町　万世の里（遠野市）　みやぎ北上連邦（宮城県中田、登米、東和、津山町）　まほろば王国（山形県真室川町）　ジパング国会（津軽の牧歌）会（津軽松市）　ニコニコ共和国（二本松市）

読売新聞
昭和61年（1986年）5月25日（日曜日）

「カエル村」盛んにPR

―東京でミニ独立国五輪大会―

西仙北町の「カエル村」など五十二カ国のミニ独立国オリンピック大会が二十四日、東京・八王子市で開かれ、この日は開会式を兼ねて「フィンスイミング」や水上プールを使った三種目が行われた。

ファンファーレとともに、法衣姿、カウボーイ風、古代風、ミリタリー調とそれぞれ趣向をこらした"民族衣装"で選手団が入場。競技では、手足にヒレをつけて泳ぐ「快速フィンスイミング」や水上異色競走を行って水面上を走る「人間アメンボ」水上徒競走」などが行われた。

「秋田カエル村」からも十人が参加し、佐々木正光代表は「ミニ独立国を見直し、自然に帰る時が来た。全国各地にカエル村をつくり、カエル村連邦を創設し、全国的な盛り上がりをいい形で育て、地方の時代への推進力にしたい」と話し、さらに「川連漆器、稲庭うどんなど特産品をよろしく」と盛んに宣伝していた。

前夜祭で各国代表と親交を深めるカエル村代表